

2025 年度

JA おおいがわ茶果菜保育園とよだ 自己評価総括表

地域社会における保育施設として、その運営や保育内容について、自らの保育実践を振り返り、自己評価を行いましたので、その結果を以下の通り公表いたします。

また、本自己評価の結果を踏まえ、今後も更なる専門性の向上や保育実践の改善に努め、より一層質の高い保育の実践を目指してまいります。

評価方法		
保育士等（全職員）の自己評価	評価期間	2026年1月8日（木）～1月15日（木）
	実施方法	全職員に自己評価について趣旨を説明し自己評価を実施した。
保育施設の評価	評価日	2026年2月3日（火）
	実施方法	話し合いにより職場全体で共有し、保育施設の課題を明確化し、改善策を検討した。

項目ごとの評価	
保育理念	保育理念を念頭に子どもたちがより楽しく、より深く遊びに入れるように保育士が「思いっきり」集中して活動し、保育を充実させることができたと思う。
子どもの発達援助	少人数ということもあり一人一人とじっくり子どもと向き合い、見守りながら、どこで手を貸すか職員で常に話し合いながら保育をおこなえたと思う。しかしながら集団生活・活動という面では少人数ゆえに子どもたちに体験させられないこともあり悩みどころだった。
保護者に対する支援	保護者に対する支援としては、保護者としては聞いてみたいがきっかけがつかめなかったと言うことがあったのではないかと反省。日々の送迎時に保護者が聞き出せるような話しかけを心掛けるべきだった。
保育を支える組織的基盤	職員全員で子どもの姿を見守れる体制で一年やってこられたと思う。15分ミーティングや職員会議等でも話し合いをおこない、また園内研修を実施し保育力の向上につなげることができた。

総評
今年度は、3月31日で閉園が決まっていることもあり、5月・8月に子どもが退園し子どもが0歳児と2歳児の3名ということもあり活動を盛り上げるのが難しい面がある一方、一人一人の子どもの発達状況や性格を熟知して、常にこの子の最善とは何を考えながら保育に取り組めたことは良かったことだと感じた。今何が必要かを職員間で話し合い保育につなげ、常に子供の立場を思いやりながら行動することができた。